

高い交通アクセスの充実が必要不可欠です。

●二次交通対策の概要

利便性の高い2次交通網の構築、実効性を高める基盤づくり、公共交通の利用促進と充実の好循環を基本方針とする35の取り組みを掲げています。

基本方針①

「利便性の高い2次交通網の構築」として、新駅から市内中心部や北後志などに向かうバス路線の検討、スマートフォンなどで事前予約可能が出来るIOTを活用したタクシーサービスの充実、レンタカー事業者の誘致。

基本方針②

「実効性を高める基盤づくり」として、観光型MaaS(※2)等のICTを活用したサービスの提供、新駅とバスやタクシーなどの2次交通との利便性を高めるための駐車場や駅機能の整備などの環境整備。

基本方針③

「公共交通の利用促進と充実の好循環」として、新幹線利用者が目的地まで円滑に移動できるよう、SNSやHPなどの電子媒体を活用した観光プログラムの検討。

基本方針④

「開業気運の醸成」として、小樽に訪れる人だけではなく、市民にとっても新幹線開業がメリットになるよう、市民の開業への気運を盛り上げるためのイベントや、市民の利用を促進するための支援策の検討。

今後の進め方

策定したアクションプランを、より効果的に実行に移すため、協議会の作業部会において、実施可能なものから随時実行していくます。

ソフト対策の概要

基本方針	項目	取組の概要
1. 新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大	(1)小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発	ア. 東北圏や青函圏等と連携した旅行商品の開発 イ. 北後志地域と連携した個人観光客向けプログラムの開発 ウ. 倶知安・ニセコと連携した個人観光客向けプログラムの開発 エ. 小樽市内の歴史や文化資源、自然資源を広く活用した観光プログラムの開発 オ. 新幹線と他の広域交通を組み合わせた旅行商品の開発
	(2)地域連携や電子媒体の活用等による効果的な情報発信	ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体との連携体制の構築 イ. 地域連携による旅行商品等の幅広いPR ウ. SNSやHP等の電子媒体を活用した情報発信
2. 新幹線開業を地域の活力に繋げる取組	(1)滞在時間・宿泊客の拡大を目指した取組	ア. 宿泊客拡大に向けた取組 イ. 観光目的の多様化を踏まえた市内全域をフィールドとした観光資源の磨き上げ
	(2)小樽の地域産業と観光産業の結びつき強化	ア. 小樽産食材の活用促進 イ. 小樽ならではの産業観光の推進 ウ. 地域特性を生かした新幹線車内で味わえる商品の開発 エ. 開業記念グッズの製作
	(3)観光入込の季節間の平準化に向けた取組推進	ア. 観光入込の季節間の平準化に向けた各種取組
	(4)中小事業者を中心とした外国人観光客への対応力強化	ア. 中小事業者を対象とした外国人観光客への対応力強化
	(5)企業立地の促進	ア. 新駅周辺における民間機能の誘導 イ. 新幹線開業を契機とした企業立地ニーズへの対応
3. 新駅周辺の魅力づくり	(1)新駅を起点とした新たな観光プログラムの創造	ア. 奥沢水源地と勝納川の環境整備 イ. 奥沢水源地や周辺の自然環境を活用した観光ガイドプログラムの開発 ウ. 奥沢周辺の観光資源との連携
4. 開業気運の醸成	(1)新幹線開業に向けた市民の意識醸成と利用促進	ア. 市民の新幹線開業気運を高めるイベントの実施 イ. 開業までのカウントダウン ウ. 市民等の新幹線利用の促進
	(2)開業気運を高めるイベントの実施	ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域が連携した開業イベントの実施 イ. 開業後のイベント実施



用した分かりやすい情報発信、フ

エリーやクルーズ船と連携したレール＆クルーズ、新幹線を利用した通勤・通学者の利用増加に向けた移住・定住促進策の検討。

(※2) 観光型MaaSとは出発地から目的地までの移動ルートの一括して行うことができる仕組みのこと。

二次交通対策では、これら3つの基本方針と35の取り組みを推進するため、採算性、事業性を考慮しながら実現に向けて検討を進めています。

特に、IOT、ICTの活用や小樽周辺からの利用者を取り込むための駐車場の整備、移住・定住を促進するための住宅などの整備については、当所でも議論していく予定です。

2次交通対策の概要

基本方針	項目	取組の概要
1. 利便性の高い2次交通網の構築	(1)バス交通の充実	ア. 新駅と市内中心部を結ぶ専用シャトルバスの運行 イ. 現在の路線バスの活用 ウ. 新駅と朝里川温泉やスキー場を結ぶバス交通の検討 エ. 北後志地域等をつなぐ路線バスの活用 オ. 外国人観光客にも対応したバスの運行 カ. 持続可能な運行体制の構築
	(2)タクシーサービスの充実	ア. IoTを活用した配車システムの導入 イ. 外国人観光客にも対応したタクシーサービスの充実 ウ. 乗合タクシーの検討
	(3)レンタカーサービスの充実	ア. レンタカーサービスの誘致 イ. レンタカーアイテムによる周遊性の向上
	(4)レンタサイクルの充実	ア. 可能性調査を踏まえたレンタサイクル拠点の設置 イ. 身軽になってサイクリングを楽しむことができるサービスの提供
2. 実効性を高める基盤づくり	(1)ICTを活用した新たなモビリティサービスの提供	ア. 観光型MaaS等の新たなモビリティサービスの提供 イ. 交通・観光関連事業者のキャッシュレス決済の導入促進
	(2)広域連携を強化する体制の構築	ア. 広域連携を強化する組織づくり
	(3)新駅の交通結節点機能の向上	ア. 利便性の高い駅機能の確保 イ. 駅前広場等の整備
	(4)移動円滑化の取組の推進	ア. バスの利便性向上の環境整備 イ. タクシーの利便性向上の環境整備 ウ. ユニバーサルデザイン等の導入の推進
3. 公共交通の利用促進と充実の好循環	(1)情報発信の強化	ア. 積極的な情報発信・PR イ. 新駅に向かう案内・サインの設置 ウ. 外国人対応の強化
	(2)公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ	ア. 身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供 イ. 新駅と俱知安の周遊性を高めるサービスの検討 ウ. クルーズ船等との連携 エ. 地域連携等による魅力的なサービスの提供
	(3)新駅周辺の魅力づくり	オ. 魅力ある車両の導入 ア. 小樽のまちのイメージが伝わる駅舎や駅前デザインの検討 イ. 自然の豊かさや四季の移り変わりを感じる景観形成 ウ. 新駅の立地特性を生かした魅力づくり
	(4)移住・定住の促進	ア. 新駅周辺における住宅の整備促進 イ. 新幹線通勤・通学者の利用増加に向けた取組 ウ. 交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策

●ソフト対策の概要
 「新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大、新幹線開業を地域の活力に繋げる取り組み、新駅周辺の魅力づくり、開業気運の醸成を基本方針とする26の取り組みを掲げています。

【ソフト対策】新幹線の開業で「小樽に行きた

い」「新幹線を利用したい」と思つてもらうためには、市民に魅力を伝えていくことが重要です。

●基本方針①
 「新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大」として、新駅開業による個人観光客の増加が見込まれることから、後志や東北など連携を図り、小樽の文化や食資源を活用した観光プログラムの開発と提供及び情報発信。

●基本方針②
 「新幹線開業を地域の活力に繋げる取り組み」として、滞在時間を延ばし宿泊客を増やすための観光資源のブラッシュアップ、小樽の食材や産業を生かした観光土産商品の開発。